

技術報告集によせて

1989年より出発しました「技術職員による技術報告集」が、今回で18回目の発刊となりました。この報告集は、当初は工学部技術部等の有志により発刊されていましたが、2008年より主催を三重大学とし、工学部のみならず、全学の教室系技術職員や事務部が一体となって発刊されました。最初は小さな活動であったものが、継続の中で着実に実績を重ね、ここまで大きく発展したことを喜ばしく思います。

さて、三重大学では、50名以上の教室系技術職員が工学研究科、生物資源学研究科、医学系研究科、教育学部及び学内共同利用施設等に在籍し、個々に専門的な技術をもって教育・研究支援に取り組んでおります。このように、勤務地や専門分野が異なる者同士が、お互いの考えや意見を出し合い、一つの物事を結実させていくことは、大学運営や組織の活性化に欠かすことのできないものであります。本報告集の発刊にあたっては、半年以上前から準備委員会を発足して繰り返し議論を行い、また学外の関係機関にも積極的な働きかけを行ってきました。その結果、学外からの寄稿・報告件数は昨年を上回り、本報告集の発刊にあわせて実施する技術発表会においても、北陸地区の富山大学をはじめ、岐阜大学、名古屋工業大学、静岡大学の発表を頂くこととなりました。例年以上に活発な技術・人事交流が行われることと確信しております。

2010年4月からは第二期中期目標・中期計画が新たに始まります。国立大学法人においては、より厳しい環境がとりまくことは必然であり本学も例外ではありません。そのような中、本学の技術職員の積極的な自己研修への取組みは、予算が厳しい中、既存の「人財」を生かすべく活動かと心強く思っております。

最後に、本来大学において教育・研究に携わる専門技術をもった技術職員は、教員・事務職員同様に無くてはならない存在であると考えております。本報告集が、大学における技術職員の存在を学内外に発信する証として生かされると同時に、多方面の方々にご高覧賜り、忌憚のないご意見等を頂ければ幸いに思います。

2010年2月

三重大学長 内田淳正